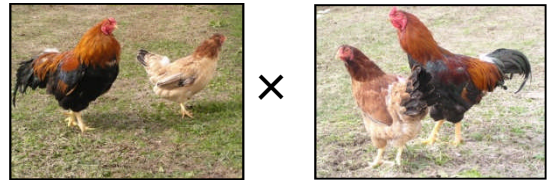
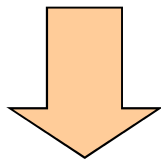


課題名: コレシトキニンA受容体遺伝子の多型が鶏の成長に及ぼす分子機構の解明 実施期間 H24
外部資金: 財団法人 旗影会

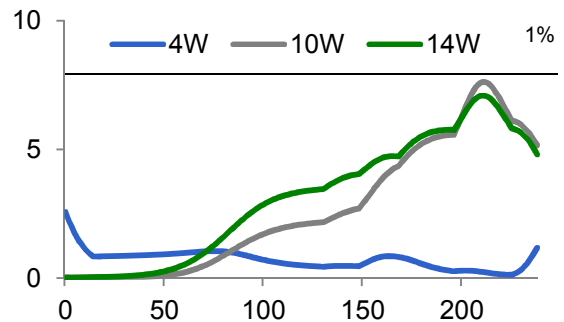
発育に差がある比内鶏を交配して遺伝子解析を行った結果、コレシトキニンA受容体(CCKAR)の遺伝子型と成長形質との関連性が明らかとなった。



保存会比内鶏 × 畜試比内鶏
QTL(量的形質遺伝子座)解析家系



しかし、CCKARの特定の遺伝子型が、なぜ、成長の良い結果を示すのか、その分子機構は不明である。



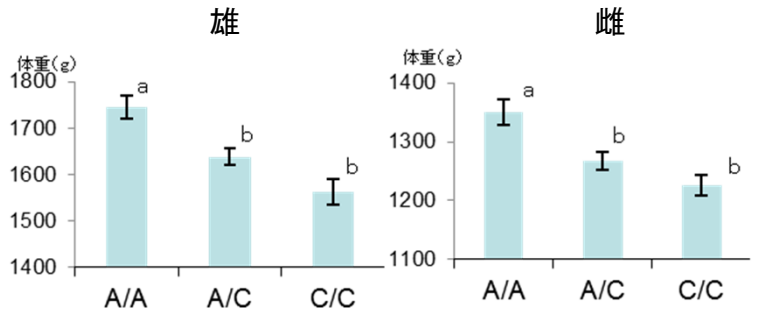
QTL解析結果(4番染色体)



そこで

その分子機構を解明するために

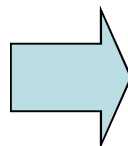
遺伝子型ごとにCCKARの主要発現部位におけるCCKARの発現量を比較し、成長過程における飼料摂取量・飼料要求率を比較・解析する。



CCKAR遺伝子のSNP型と体重の関係

①コレシトキニンA受容体遺伝子のSNPが飼料摂取量および成長に及ぼす影響の解明

②コレシトキニンA受容体遺伝子のSNPが生体での遺伝子発現に及ぼす影響の解明



最終到達目標

CCKARの遺伝子型が成長形質に及ぼす分子機構の解明

秋田県畜産試験場 力丸宗弘
茨城大学 大久保武

遺伝子情報を用いた
効率的な比内鶏の育種選抜